



# こども銭湯

「減っていく銭湯」と「居場所のない子供」両方を守る仕組みを、まちにつくる

計画背景

今の時代、絶対必要ではないけれどあることで生活が豊かになる



## 1. 銭湯の減少・地域での役割

お風呂に入る行為はみんな共通。銭湯はパワーチャージ、コミュニケーション等、少しだけ普段と違う時間を過ごせる場所として人々に必要とされている。しかし現在、全国的に銭湯の数は減少している。

## 2. 待機児童・居場所のない小学生

地価と利便性のバランスが良い地域には若い家族が集中し、結果として待機児童が多くなる。また現状、小学生へのサポートは幼児以上に整っておらず、彼らが小学生になったとき、放課後に行く場所がない。

## 3. 高齢者の居場所

近年、銭湯等の公衆浴場の利用者の半数以上は60歳以上の高齢者である。家の外に出る機会が少ない高齢者の数少ないコミュニケーションを取る機会でもある。

## 提案

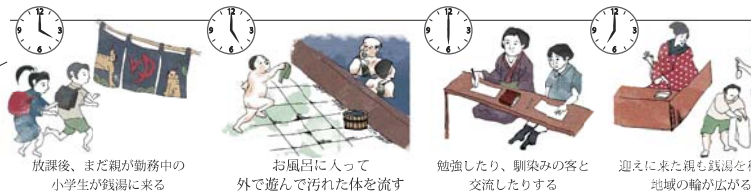
こども、親、高齢者と三者が居場所を必要としている中、新しい児童預かりのプログラムとそれに伴ったリノベーションの提案を行った。

プログラム

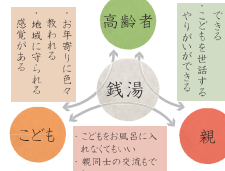
小学生の居場所をつくって  
無くなっていく銭湯を守る



一般的な銭湯の営業時間  
= 児童の居場所が無い時間



広がる地域の輪



### 緑側空間

銭湯と道路の間の塀を無くして緑側空間にする。大きなすだれで通行者の視線を振りつつも外の緑道まで空間がつながることで、入浴後の開放的なくつろぎの場となる。

塀を取り払うことで空間が広がる

天井が高いという銭湯の特性を活かし、子供の勉強のための簡易的な2階空間をつくる

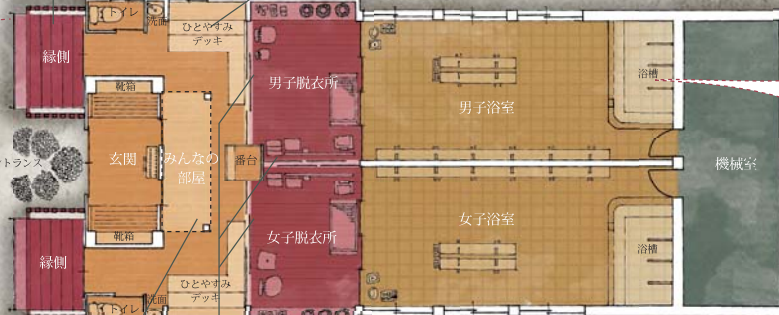
プライベートな2階  
銭湯は天井が高い構造になっている。入り口の高い空間を活用し、こどもが自由に時間を使える2階を設計する。適度に開かれた空間は、子供達が集中して勉強するのに適している。

### ひとやすみデッキ

お風呂から出た後は誰しもがいたんだ浴巾。その浴巾空間を利用して、好きな高さで座って休憩できるようにすることで様々なレベルの境界を生み、限られた数の椅子では実現できない自由な交流空間を作る。

ここで癒える・過ごしたくなる空間をつくる

今も昔も変わらない  
広くて天井が高い開放的な風呂は、家と違う良さがある



シェードカーテンの仕切り  
カラフルなシェードカーテンを組み合わせて、間仕切りとする。視線は遮るけれども硬い壁のように空間を区切りすぎず柔らかな印象で、不必要な時には全て取り払い、日中の時間に広い空間として地域イベント等に利用できる。

脱衣所の半分を、風呂上がりの交流の場となる「みんなの部屋」にする

リノベーションプラン